

九州北部豪雨被災地支援ボランティア報告

奈良県防災士会は、8月26・27日の2日間にかけて朝倉市杷木において被災地支援ボランティアを行いました。参加者は11名です。

8月25日夕方、大阪南港からフェリーにて出発。26日早朝別府港に到着。

当初は、東峰村での活動を予定していましたが23日に東峰村ボランティアセンターから「申し訳ありませんが朝倉市へ回って頂けませんか？」「朝倉市でボランティアが不足しています」との電話を受け、急きょ目的地を朝倉市に変更しました。あいにく26日は朝から激しい雨が降っており、活動できるのかと心配しながら向かうことになりました。途中、朝倉市ボランティアセンターから電話が入り、「一般ボランティアは中止ですが、団体ボランティアは11時に最終判断となりますので、ボラセンまで来て下さい」との連絡が入ったので、団体ボランティア受付場所になっている朝倉市光陽高校へ向かいました。



8/26 大分自動車道（日田市）



朝倉光陽高校（8/26 団体ボラセン）



朝倉光陽高校（団体ボラ受付）



<第一日目（8/26）>

朝倉市光陽高校で受付を済ませて待機していると、「防災士の方ですか？」「私も防災士です。」と現地ボラセンの方（熊本県社協から派遣されている江口さん）から声がかかりました。お話を聞くと熊本県社協では社協職員は必ず防災士資格を取ることになっていますとのこと。

いよいよ雨が激しくなって「今日は中止かな？」と思った矢先、「今日中に済ませておきたい場所があります。」「ご協力願えませんか？」と別の係の方から声がかかり、私たちはそちらへ向かうことに。

ボラセンから西へ結構走って現場へ到着。あらためて被災地が広いことを実感しました。現場で、先に入っていた方と合流し家の片付け、泥出し等の作業を完了。近所の方の話では、この地域は農業が盛んでビニールハウスの中に入った泥の撤去で困っていると話されていました。



活動を行った朝倉市立出地区（被災者は写真 NG）



この地区のビニールハウス内の土

帰りは、しばらく国道 386 号線を走りましたが、いたるところに豪雨災害の傷跡がありました。



R386 線の被災状況



<第二日（8/27）>

昨日の雨がウソのように上がり、9時30分頃に今日の団体ボラ集合場所の朝倉市老人福祉センターへ到着。受付で、担当の方から「昨日行けなかったので今日は被災者の方が待ちわびています」「全力でお願いします」と声をかけられてボラセンを出発。“頑張るぞ！”という気持ちと、シニアの方が多いため“無理は禁物”と心で考えながら待ち合せ場所へ。

コーディネーターの方から、「この先の細い道を上がったところに石詰という地区があります。」「そちらに責任者がいます。」と指示を受けて、これが道路？という道をゆっくりと上流の方へ向かいました。途中、四駆でないと行けないような仮設道路を行くと信じられない光景が・・・。

たしかこの辺りはのどかな田園地帯のはず。しかし、見渡す限り川原になっています。川原の中の仮設道路を進みながら、目的地の石詰地区へ到着。



松末小学校から石詰地区へ向かう仮設道路から撮影

責任者の方から、1チームは「Aさん宅の家財道具の持ち出し片付け。」もう1チームは「Bさん宅の床下の泥出しと奥さんの持出し品の手伝い。」残りの人は、「Cさんの倉庫の中に入り込んだ土砂のかき出し作業。」時間があれば、「道路の土砂の撤去作業もお願いします。」との指示を受け、それぞれの持場へ分散して早速作業を開始。



Aさん宅の家財持ち出しは、吉岡、山崎、植村防災士が担当。Bさん宅の床下の泥出し作業には、南上、堀内、漆戸防災士、Bさんの奥さんの手伝いは大北防災士。Cさんの倉庫の泥出しは、末田、板垣、川口、杉村防災士が向かいました。



Bさん宅に支援に入った南上防災士の話では、「床下に50㍑溜まった土砂を腹ばいに潜り込んで出した」とのこと。Aさん宅の家財道具の運び出しも50㍑以上埋まった家具を運ぶのに悪戦苦闘。Cさん宅の倉庫の土砂出しも、その量の多さに汗だく状態でした。

作業も一段落し、早く終了したチームからCさん宅倉庫の泥出しに合流。最後に倉庫内の原付きバイク(土砂に埋まってかすかにハンドル部分が見えてます状態)を、土砂をかき出しながら倉庫の外に運び出して作業を終了しました。

<現地での聞き取りから>

今回、当時の様子をAさんから聞くことができました。

〇Aさんの話

濁流が押し寄せてきて電柱がバタバタと倒れて火花が出るのを目撃。上流にある家5～6軒が次々流されて行った。この地区で3人の方が犠牲になられたとのこと。

濁流は、まるで津波のように押し寄せてきた。川向こうの家の方が二階から「助けてくれ！」と手を降っていたが、どうすることもできず。というより、我が家にも濁流と流木が押し寄せており、流木が家の壁を突き破ったことにより一拳に水が流れ込み、廊下が川のようになり、慌てて屋根裏のクローゼットへ逃げ込んだ。流木が家に当たる度に地震のような揺れが……。助かったのは奇跡です。屋根裏で恐怖の一夜を過ごしたが、雨がやんでも怖くてしばらく外に出られなかったそうです。



何度も流木が突き刺さった痕（Aさん宅）



流木が突き刺さった部屋の中（Aさん宅）



この屋根裏クローゼットへ逃げ込んだそうです



まだ手つかずの娘さんの部屋

＜現地に入って感じたこと＞

この地域は道路の復旧が進んでおらず、最近になって仮設道路の設置に伴い支援ボランティアが入れるようになったばかりです。この石詰地域の少し先にも集落がありますが、そこは未だ仮設道路ができていないため支援ボランティアは入れていないと思われます。現地で聞いた話では、石詰集落内の仮設道路はボランティア

の方が重機を持ち込んで整備したそうです。

行政は、メイン道路の復旧で支線道路までなかなか手が回らない様子でした。仮設道路の復旧が待たれます。



重機を使った活動と奈良県防災士会ボランティア

また、この石詰地区へ向かう仮設道路は、川原の石がゴロゴロしているところに土を固めて作った程度のものなので、一雨降れば流されてしまう危険があるでしょう。支援ボランティアの方の話では「年内いっぱいはいかかるのでは？」とのこと。

個人的には、一雨降れば二次災害が起こり得る危険な地域であり、引き続き支援が必要と感じました。



朝倉市杷木（石詰）現地にて



朝倉市老人福祉センター（ボラセンにて）

（報告：植村信吉防災士）

九州北部豪雨災害支援ボランティア会計報告

収入

ボランティア個人負担金	132,000
支援金	100,000
合計	232,000

支出

交通費	195,558
宿泊費	51,700
支援金	100,000
雑費	8,996
合計	356,254

差引

収入－支出＝**△124,254**

不足分は、ゆうちょ災害支援口座より支出。

(報告：板垣伴之防災士)